

広報



# まくべつ

わたしたちのまち  
 (昭和57年6月1日現在)  
 人口 21,239 (-12)  
 男 10,490 ( 0 )  
 女 10,749 (-12)  
 世帯数 6,288 (+4)

人のうごき(5月中)  
 転入 74人 死亡 11人  
 出生 26人 転出 101人

生きる喜びを創造するまち・幕別町 (新総合振興計画)



57年

7

No.366

おもな内容

- 夏休みを楽しく安全に.....2・3
- トレーニングセンター近く着工.....4
- 皆んなで国保を守ろう.....5
- 空き缶ゼロで「クリーンまくべつ」.....6
- 献血の輪をひろげよう.....7
- ぼくのお母さん わたしのお父さん.....7
- まちのニュース.....8
- 手づくり広場完成.....9
- ふるさと館ニュース③.....10

## どちらが先に割れるかな

町立幕別中央保育所では、6月20日に運動会が開催され、この日は暑い日で日傘をさしながら我が子の成長を見入っていました。

23種目のうち特に「くす玉割り」では玉を一度に2個を投げる子もいたり、お母さんたちは拍手で声援をし午前中で競技が終了しました。

●発行・幕別町役場 幕別町本町130番地 ☎(01555)4-2111  
 ●編集・町民課広報広聴係 ☎内線111 ●印刷・ソーゴ印刷

# 夏休みを楽しく安全に

## 規律正しい毎日を過ごそう

子どもたちにとって、待ちに待った夏休みが、もうすぐやってきます。

夏休みは心身ともに成長期の子どものため、ふだんの生活では味わえない貴重な体験ができます。

しかし、長期の休みのため不規則な生活になりやすく、病気や水・交通事故が目立つのもこの時期です。また生活のリズムが乱れ、気持ちもゆるみがちで、親の目も届きにくくなります。

楽しい夏休みが一転、非行の季節”にならないよう気をつけたいものです。

### 計画と目標を

子どもたちは、規律正しい学校生活から離れて家庭中心の毎日を送ることになり、ともすれば不規則な生活となります。

この長期の休みを有意義に過ごさせるためには、まず夏休みの「計画」をしっかり立てることが大切です。計画は親が一方的に決めるのではなく、子どもの気持ち、自主性を考え、話し合いの中で子どもに助言や指導してあげてください。

さて、その計画ですが、朝の涼しい時間は、一学期の勉強の反省や不得意科目などを中心に、子どもに自主的な学習計画・方法を考えさせるようにしてあげてください。それから、夏休みでなければやれそうもない「目標」を立ててもよいでしょう。たとえば「25メートルは泳げるようにしたい」「日記を毎日つける」などです。子どもの発達に応じて、一緒になって手順や方法を教えてあげましょう。

自分なりに考え、自分でものを創造し、努力する姿をだいに、完成の喜びを味わえることが大切です。



### 非行を防止しよう

夏——子どもたちにとっては、最高の季節です。しかし一方、身にも心にも危険がいっぱいあります。特に青少年の非行は全国的に十年ほど前から増加を続け、昨年度は戦後最悪を記録。なおも増加傾向にあります。

子どもたちにとって、非行に走りやすい夏休み。家庭では、次のような点に十分気をつけましょう。

①勉強や遊びなどの日程表を子どもたちに作らせ、はじめのある生活をさせましょう。

- ②子どもが外出するときは必ず行き先を確かめ、夜遊びはさせないようにしましょう。
- ③家庭が楽しいところであるよう、少なくとも毎日一回は家族そろってだんらんする機会をつくるようにしましょう。
- ④悪に負けない勇気を伸ばし、友達から誘われても断ることができ、強い意志を育てるように、しっかり教育”におきましましょう。

### 川遊びは危険

暑さに誘われて、子どもたちは水を求めて川遊びをする機会が多くなります。川は水温が低く、深みや流れも強く大変危険ですので、泳がせないようにしましょう。

幼い子どもの川遊びには、保護者が一緒にいても、ちよつと目を離したすきに、事故が起きやすいものです。

また、危険な川などのそばで遊んでいる子どもたちを見かけた時は安全な場所で遊ぶよう注意しましょう。



### 交通事故に注意

夏休みに入ると、学校を中心と

# 千勝博

北方圏農林博覧会

51日間

■ところ／北海道帯広市 旧帯広空港跡地

'82 7/17(土) - 9/5(日)

■主催 帯広市 帯広商工会議所 十勝毎日新聞社

■後援 北海道 ほか

した規則的な生活から解放されるため、せっかく身についた正しい交通ルールや安全な動作を忘れがちになります。家族みんなで、交通安全について話し合ひましょう。

### 体力づくりをしよう

夏休み中は子どもたちにとつて、体力づくりが絶対の時期といえます。ラジオ体操や水泳などは積極的にしましょう。

また、夏は毎日が汗との戦いもあります。でも汗はなくてはならない生理現象です。スポーツをするにも病気を治すにも重要な役割を果しています。真夏に炎天下で遊べるのも汗が体温を調節しているからです。さあ暑さに負けず、遊んだり、運動をしたりして、気持ち



町社会教育指導員  
木村 正夫 さん

### 楽しい夏休み

楽しい夏休みをしたいなあ。子どもも、親も望んでいます。毎日通学してはできなかつた、楽しい友だちとの遊び、旅行、山、水、海の自然に親しむこと、算数(数学)がどうも二ガテ、夏休みにまとめよう。あ

ちよいい汗を流しましょう。



### 気をつけたい食生活

夏場は暑さのために食生活が乱れがちとなります。子どもの食事は親がしっかりと気を配ってあげましょう。

暑さで食欲がないと、毎食軽いもので済ませたり、食事を抜いたり、アイスクリームやジュースなどをとりすぎてしまう——このよれをつくるのに五日間はがんばつてやろう、スポーツ少年団では、元気で体をきたえようなどと胸いっぱいにもっていると思います。しばらくは、先生から離れて、家庭のくらしが中心です。親と子の責任で、楽しい夏休み”にしたいものです。

- 子どもなりに夏休みのけいこくをつくってみましょう。
- 胸いっぱい楽しいことを少しずつ出して、自分のできるところから、けいこくに入れましょう。
- ①友だちと仲よく遊ぶ時間

うな食生活を続けていると、体の調子が崩れてしまいます。

夏の食事で気をつけたいことは、まず栄養のバランスです。夏は水分を多くとりがちですが、飲みすぎると疲労や食欲不振を招きます。清涼飲料水よりは牛乳を飲んで水分を補いましょう。

また、ビタミン類やタンパク質をとることも怠ってはなりません。特に肉、魚、豆腐など、タンパク質に富んだ食品は夏に衰えがちなスタミナの減退を防ぎます。三度の食事、規則正しくとるよう心掛けましょう。

### 花火遊びを安全に

花火は夏の夜ならではの風物詩として、手軽に楽しめる遊びです。

- ②学習する時間
- ③スポーツ少年団などの練習時間
- ④子ども会には必ず出席する
- ⑤山や海に出かけられるかな
- けいこくは先生にも相談する
- 親の考えを聞きよく相談する(我が子にできる、けいこくをつくれたかが一番大切。そこを見る)
- 親と子の心のふれあいが楽しい夏休みにする「コツ」
- けいこくがうまうま進むように
- ①親が毎日、見守ってやる
- ②親のあたたかいほげまし、勇

安全に楽しく花火遊びをするために、つぎの点に注意しましょう。

- ①注意書きは必ず読んで守る。
- ②子どもだけで遊ばせない。
- ③人や家に向けたり、燃え易い物がある場所で遊ばない。
- ④必ず水の入ったバケツを用意する。
- ⑤風の強い日などは遊ばない。



- 気づけが子どもの心にしみる
- ③なごやかな、親と子の話し合い
- けいこくは子どもがやり通すもの。
- ①子どものやる気とがんばり
- ②親が口を出しすぎない
- ③子どものやることを、親が取りあげずに助けつつもやります。(せっかくの”子どものやる気”がしまらないように注意し、忙しさに追われて、お金をやる、それよりは、やさしい親の心づかいが大切です)

## 家族ぐるみで交通事故に備えましょう

# 町民交通傷害保険



- 保険料は月額40円で1人2口までOKです
- 保険金は1口当たり最高80万円まで支払われます
- お申し込み、お問い合わせは役場交通防災係、支所、出張所へ

# トレーニングセンター 近く着工

## 来年十月に完成予定

### 総事業費は四億五百八十四万二千元

昭和五十七年五月の臨時町議会で、農業者トレーニングセンターの建設が決まりました。総事業費四億五百八十四万二千元で、今年

七月に着工予定し、完成は来年の十月の予定。建設場所は幕別小学校の跡地で町立幼稚園の北側になつていきます。

本町では、屋外スポーツ施設が

ました。

ありますが、屋内でのスポーツ施設は温水プールがあるほか、学校

体育館の開放、青少年会館に依存

して、総合的な体育館がありません。

そのため、早期着工が町民から強く望まれていましたが、この

ほどの臨時町議会で、農業者トレーニングセンターの建設が決まり

ました。

建設は、農業関係の補助事業で

昭和五十五年度からスタートして

いる、新農業構造改善事業のひとつとしてつくられるもので、国の

補助が二分の一となっております。

七月に着工予定し、来年の十月

に完成予定になっており、建設場所は幕別小学校の跡地、町立幼

稚園の北側（錦町九十八番地）

総

事業費四億五百八十四万二千元で、

今年度の事業費は二億三百二十九

千円になっていきます。

建設については、補助事業の規

制があり、有効利用を図るため、専

門家の意見を採り入れて建設しま

す。規模は、鉄骨鉄筋コンクリー

ト二階建、総面積二千六十六平方

メートル

です。

この農業者トレーニングセンター

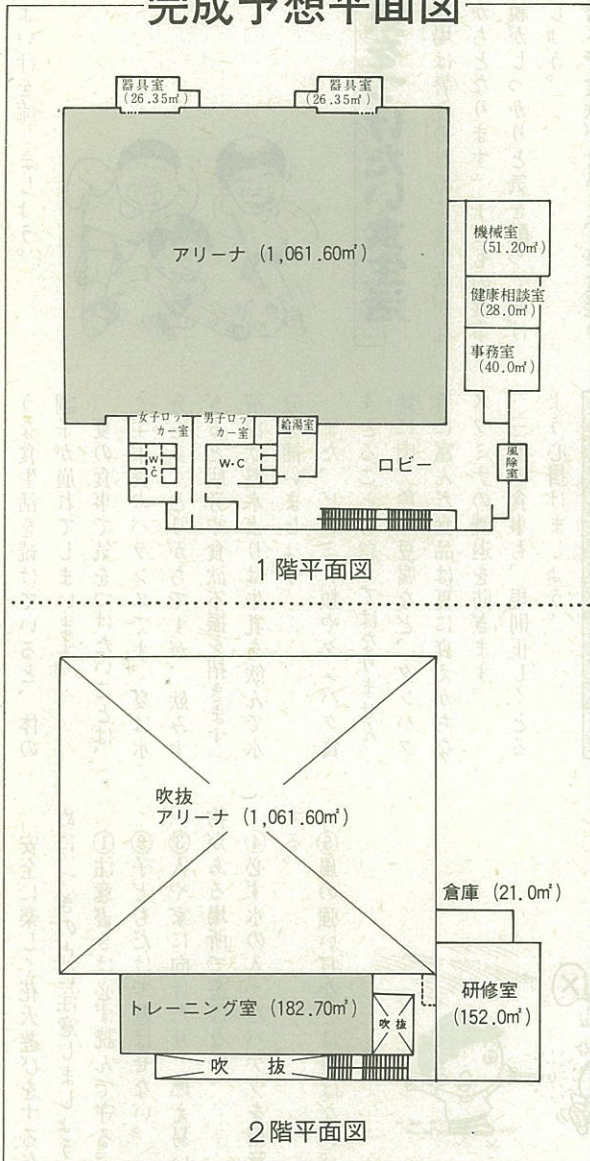
が完成することにより、町民の

体力づくりと、コミュニティ活

動の場として利用され、また、豊

かで明るく活力のある地域社会をつ

完成予想平面図



建設予定地（わかば幼稚園の北側）

一階千六百四十一・七三平方メートル、二階三百七十四・二七平方メートルになっていて、主な室は一階のアリーナ（競技場）は千六十一・六平方メートルでバレー、バトミントン、バスケット、テニスなどができるほか鉄棒、平均台、とび箱、あん馬、卓球台の用具が備えられます。また、ロビー二百十三平方メートルは休憩室として利用することができます。二階には百八十二・七平方メートルのトレーニング室がつけられ、各種機械器具を利用して、体力、健康づくりに使用していただくようになっていきます。また、研修室百五十二平方メートルを設け、体育行事の打合せの場として利用していただきます。この農業者トレーニングセンターが完成することにより、町民の体力づくりと、コミュニティ活動の場として利用され、また、豊かで明るく活力のある地域社会をつくることに重要な施設になることとでしょう。

# みんなで国保を守ろう

## 五十六年度は健全財政

### 医療費の節約にご協力を

町民の四三%が加入している国民健康保険(以下「国保」という)は、昨年の六月に医療費の改定が行われ、皆さんのご理解により国保税の引上げをさせていただきました。そのため、昭和五十六年度は收支決算において、四千二百四十万円の剰余金が出て、一応健全財政が保たれました。(表一)

表一 昭和56年度国保特別会計決算 (単位・千円)

入		出	
国保税	393,977	総務費	23,022
国庫支出金	432,337	療養の給付費	687,419
道支出金	463	療養費	12,086
繰入金	15,677	高額療養費	70,228
繰越金	38,464	その他の給付費	8,610
その他の収入	2,411	その他の支出	39,564
計	883,329	計	840,929
収支差引残			42,400

これは当たりまえのことですが、皆さんは今まで、受診の仕方による医療費のムダ使いをしていました。例えば、一つの病気で病院を短期間に転々と歩く、急病ではないのに、夜間や休日に診療を求め、必要以上の薬を求めたりするなど、このような小さなことでも、医療費のムダ使いになっていました。これらのことを気をつけよう徹底されたことが、主要な医療費の節約につながったものと思えます。

### 国保税率は引き上げません

小さな医療費のムダ使いが積み積もって、国保会計を圧迫してしまいました。これからも、なお一層、医療費の節約にご協力をお願いいたします。

これは当然のことですが、皆さんは今まで、受診の仕方による医療費のムダ使いをしていました。例えば、一つの病気で病院を短期間に転々と歩く、急病ではないのに、夜間や休日に診療を求め、必要以上の薬を求めたりするなど、このような小さなことでも、医療費のムダ使いになっていました。これらのことを気をつけよう徹底されたことが、主要な医療費の節約につながったものと思えます。

表二 昭和57年度国保特別会計予算 (単位・千円)

入		出	
国保税	391,710	総務費	24,084
国庫支出金	486,913	療養の給付費	758,249
道支出金	500	療養費	18,687
繰入金	10,716	高額療養費	71,536
繰越金	20,000	その他の給付費	10,900
その他の収入	2,861	その他の支出	29,244
計	912,700	計	912,700

(注) 療養の給付費：医療機関より直接請求されたもの  
療養費：看護、補装具、整骨など  
その他の給付費：助産費、葬祭費

### 医療費の通知内容を確認

これからの、医療費の三割が税金だということを忘れなく節約にご協力をお願いいたします。

医療費の内容の通知を、国保加入者の方ご自身にお知らせいたします。昨年は糠内地区でしたが、今年度は札内地区を予定しており、医療費の内容を良く確認していただき、検討をお願いいたします。なお、国保の運営は国保加入者の方の税金が柱になっています。納期限まで納入するように、お願いいたします。また社会保険などを喪

失した人や、社会保険に加入した人は、十四日以内に届け出る事になっていきます。いざ病院へ行く時に慌てないためにも、この規則を守って正しい受診をしていただきたいものです。

## 健康カルテ

15

### 今日から始まる運動健康法

歩く健康法——乗物の発達によって、足を使うことが少なくなってきました。体力は足から衰えます。歩く運動で血行を良くし、脚の筋力を高めましょう。

一日「一万歩」を目標にして取り組むと良いでしょう。積極的な訓練として実施する人は一分間に八十から八十五歩の速さで歩くことから始めて、だんだんと距離をのばしてみてください。

走る健康法——走ることは全身運動ですから、血行を良くし、新陳代謝の促進や呼吸循環機能を高めます。歩いたり走ったりしながら、途中で脚を伸ばしたり、足首

### 昭和57年度国保税率

- ・所得割 100分の7.5
- ・資産割 100分の74
- ・均等割 10,500円
- ・平等割 16,000円
- ・課税限度額 270,000円

や腕をまわして筋肉をときほぐし、体を暖めてから始めましょう。走る時の呼吸は、自分のしやすい方法でかまいませんが、二つ吸って二つ吐くというやり方があります。三週間くらいまでは、心拍数を百二十から百四十回くらいの間を保つように、ゆっくりとしたペースで走ります。

なわとび健康法——なわとびは呼吸循環機能や筋の持久性を高めます。急激にするとアキレス腱を切ることがありますので、足が少し暖くなるまで、その場とびの準備運動をしてから始めましょう。

(町保健婦・武田ヨネ子)





「クリーンまくべつ」運動で拾い集めてきた空き缶

# 空き缶ゼロで

## 「クリーンまくべつ」

### ぼく、空き缶捨てないよ!

#### 清潔で住みよい町づくり

近年、道路や公園、空き地にたぐさんの空き缶、ゴミなどが散らし、美観を損なっています。清潔な住みよい町が、このようでは大変です。そこで散乱している空き缶、ゴミなどを早急に解決しようというところが、大きな社会的問題となっています。

こうした現状を改善し、清潔で潤いのある町をつくりあげるために、各公区、各種団体の参加の協力により「クリーンまくべつ」の運動を行いました。

この運動は、地域の方が自らの手によって、清潔な町づくりの輪を広げ、単に散乱するゴミを拾うためだけでなく、ゴミの問題を通して人と人のふれあいを求め、自らの問題を自主的に解決しようとする、地域連帯の意味から実施したものです。

#### 「クリーン

#### まくべつ」運動

「クリーンまくべつ」の運動は五月三十日（五月三〇日）または、五月中に公区ぐるみで道路や公園、空き地などを清掃し

ました。公区は九十一公区中、四十三公区が実施、そのうち、農村地区は三公区でした。参加人員は千八百四十人、拾った空き缶は四千四百六十個もありました。

また、町および町衛生会では、各種団体、事業所に呼びかけて、六十人の参加をいただき、国道三八号線（明野から新川）道々幕別・更別線（札内から途別）明野八線道路沿いの、わずかな路線でなんと、六千二百五十個もの空き缶を拾いました。

この運動で拾った空き缶は、豊岡ゴミ埋め立て地に処理したほか、公区の一部では、空き缶処理機でつぶし、廃品回収業者に売却したのもあります。

なお、秋の全町環境美化運動は、十月三日（日）です。公区ぐるみで取り組みましょう。

#### 快適な生活環境は

#### みんなの手で

私たちは、美しい自然と限りある資源を子孫に引き継いでいかなければなりません。もし、今までと同じように、心ない人によって空き缶、ゴミなどが投げ捨てられるならば、私たちの生活環境はどうなるでしょう。快適な生活を求めるのなら、空き缶やゴミなどは

絶対に捨てない。みんなの手で豊かな環境、清潔で住みよい町づくりを進めようではありませんか。

#### 町衛生会の役員と仕事

町衛生会の仕事は、環境衛生をより以上に進めるために、町の仕事に協力をし、発展向上させる団体であります。

住みよい清潔な町をつくるためにも、皆さん方のいろいろな、ご指導を役場総務部町民課またはつぎの役員の方に申し出ていただき、

#### 夏——台所衛生に

#### 十分注意を

七月、八月の暑い盛りは、食品のいたみが早く、食中毒が多く発生します。食品の管理と台所の衛生には十分に気をつけましょう。

食中毒の予防は、一にも二にも食品を細菌汚染から守ることに尽きますが、そのためには、次の三原則を忘れないようにしたいものです。

- ① 清潔
- ② じん速
- ③ 加熱と冷却

「清潔」については、いまさら言うまでもありませんが、ふきん、まな板、包丁、食器類などの衛生には、とくに気をつけましょう。

また、意外な盲点となるのが「手」です。台所に立つときには必ず手を洗うくらいの心がけを持ちたい

清潔な町づくりにご協力をお願いいたします。

- ▽会長・大上長治（本町）▽副会長・林源一（札内あかしや町）
- 武田克之（札内青葉町）▽理事・斉藤初（宝町）松田康男（緑町）
- 江戸克栄（緑町）佐藤栄（札内文京町）川瀬卓雄（札内豊町）工藤辰弥（札内若草町）堂山俊雄（札内桜町）▽監事・角常久（糠内）
- 須田義雄（錦町）佐々木房雄（札内共栄町）▽支部長・各公区衛生部長

ものです。

②の「じん速」は、食品を早く調理し早く食べる、ということですが、夏場はとくに注意しましょう。

③の「加熱」つまり煮沸消毒は、手軽にできる「細菌退治法」のことです。とくに、ふきんはバイキンの巣になりやすいので、よく洗って煮沸消毒をし、日光に干すのが一番です。

また、「冷却」は、細菌の増殖を抑えるのに効果がありますが、冷蔵庫を過信するのは禁物です。

夏の間は、冷蔵庫の利用が増え、食品を詰めすぎて冷気の循環を悪くしたり、ひんぱんなドアの開閉によって庫内の温度が上がりがちです。

週に一回くらいは、残品を整理するなどの「庫内一掃」を行いましょう。

# 献血の輪をひろげよう

## 「愛の血液助け合い運動」実施

宇宙時代といわれる今日ですが、どんなに科学の粋をこらしても、まだ人工的に血液を造り出すことはできません。

病院で待っている患者さんに、いっときも早く血液を届けるには、すべて献血に頼るしかありません。

七月一日から三十一日まで「愛の血液助け合い運動」が行われます。

町内で昨年、献血にご協力いただいた方は、千六百二十人（延べ人数）で一昨年より五百五十七人（五二・三％）増え、年々助け合い運動の輪は広がっています。

しかし、例年、夏場は血液が不足する季節で、血液を必要とする患者さんにとって、たいへん深刻な季節なのです。

これは、山や海などレジャーに出かける人や、夏の暑さが献血意欲を鈍らせ、献血者が少なくなるからです。

バスの中で席を譲るのと同じように、見ず知らずの人に自分の血液を無償で提供することは、まさに尊い行為といつていいでしょう。あなたの血液が患者さんの心に生命の灯をとますのです。

献血車の来町をお知らせした時は、ご協力をお願いいたします。

### 献血で健康管理を

献血していただいた血液は、A B O式・Rh式血液型の判定、血清トランスアミナーゼ、アルカリフ

オスファターゼ、総蛋白、アルブミン、アルブミン対グロブリン比、尿素窒素、コレステロールの合わせて七項目の生化学検査も行い、検査結果をお知らせすることになっていきます。

大切な生命を救う献血が、自分の健康管理にも役立つわけです。献血で健康管理をしましょうか。

七月二十五日（日）定員五十名  
七月二十六日（月）定員四十名  
の四日間です。二十四日、二十五日は主に勤労者の方を、二十三日、二十六日は婦人の方を対象に考えています。



## 「町づくり見学会」に参加しませんか

最近完成、建設中の施設を中心に...

自分たちが生活している地域から一歩外へ出て、町の施設を広く考えて見ませんか。

町内には、いろいろな施設があります。それらの施設のうち、主に最近できた施設、建設中の施設を中心に「町づくり見学会」を計画いたしました。そして、施設を見学したあと参加者の皆さんに、町づくりに

聞かせいただき、町づくりに反映させたいと考えています。

### 開催する日は

七月二十三日（金）定員五十名  
七月二十四日（土）定員五十名

参加料は無料、町のバスで囲みます。昼食は各自で用意してください。申し込みは七月一日発行の「おしらせ」に申し込み用紙がついていますので、七月十日までに申し込んでください。なお、一日に参加者が集中し定員に達した場合を考え、見学日を第一希望日、第二希望日と書いていただきます。

見学コース、集合時間は、参加申し込み後、直接参加者にお知らせいたします。（詳しくは、総務部町民課広報広聴係へ ☎四一二一一、内線一一一まで）

ぼくのお母さんは今、幕別のお母さんは、ぼくがテストで少し悪い点数をとると、すぐおこります。おこった時のお母さんの顔は、角をつけると、おにとましがえるぐらいです。でも、お父さんよりやさしいから好きです。お父さんにおこられると助けてくれるのがお母さんです。もし、お母さんが病気でねこんでしまったら、ご飯を作ってくれる人がいなくなるので、病気になるやうな気がつけてください。じょうぶでながもちのお母さんは、参観日の日にはいろいろそがしくても来てくれます。ぼくはお母さんの手伝いをあまりしないけど妹はよくします。これからはお母さんの手伝いを少しして、勉強ももっとかりして、お母さんを喜ばしてあげようと思います。



お母さん



白人小学校（5年）  
中川 淳史 君

## ぼくのお母さん ② わたしのお父さん



お父さん



白人小学校（3年）  
平田 由紀江 さん

お父さんは、私がかぜで学校を時々休むので、「勉強はあんまりしなくていい。外へ出て思いつき遊び」と、いつもいいます。日曜日になると、私と弟にボールなげをしたり走ったりさせてくれます。私が悪いことをしたり、うるさかった時はげんこつやびんたがとんできます。こんなお父さんは、もうまっぴらです。でも、私はお父さんが好き。おさけをのんで帰って来た時のお父さんは、とてもおもしろいです。朝、おしごとに行くとき、私と弟が「よつぱらいうんでんしないでね」「交通事故にあわないでね」「早く帰って来てね」というと、「わかった、わかった、うんうん」といつて出かけていきます。からだにきをつけてこれからも、私たちのために、せいじつぱいがんばってほしいと思っています。

# まぐべつ



●特別養護老人ホームを訪問  
五月二十一日に幕別町料飲店組合の人たちがソバ、焼鳥などをプレゼントしたり、踊りや唄でお年寄りたちを楽しませました。また、五月二十七日に帯広の寿司屋さんが生寿司を。角田施設長は「本当に感謝の言葉もない、お年寄りたちは喜んでいました」と話していました。



●幕別町農協で家畜まつりを開催しました  
家畜品評会では、酪農家が丹精を込めて育ててきた自慢の乳牛88頭、肉牛17頭、馬45頭が出陳しました。

●緑町第二公区で早朝体操  
非行防止と健康増進のため、毎年五月から九月まで青少年会館前で早朝ラジオ体操をし、精勤者には記念品を贈っています。



●町立わかば幼稚園で運動会  
六月二十日行われた運動会では、園児全員による「ちっちゃなインデアン」でかわいい羽根飾りをつけ元気いっぱい。

## 交通安全



●宝町公区で交通安全看板  
地域ぐるみで交通安全。車の通行の多い所へ看板を立てました。



●古舞小ではヘルメットを着用  
児童30名が昨年からの交通安全のため、自転車通学にヘルメットを着用しています。



●札内鉄南長寿会で交通安全教室  
お年寄りが交通事故にあわないよう意識をたかめるために教室を開催しました。

## ストップ・ザ・交通事故

— 2 —



札内青葉町304-21  
伊藤一男さん

交通安全を守って  
安全運転を：

交通事故により、毎日多くの人が尊い命を失ったり、けがをされたりしておりますが、北海道がまた事故死全国一になるなど、私も交通安全対策に携わる役員の一員として、日常、心を痛めております。

「俺に限って、私に限って」の心は捨ててください。皆がそう思って事故を起こしているのです。一瞬の油断によって加害者、被害者を問わず平和な家庭が不幸のどん底に陥れられてしまうのです。

北海道は道路の広いこともあり、本州の人よりも平均十キロは速度が速いといわれております。交通ルールを守って、安全運転をするという、ごく初歩のこのことを守ることが、ありふれたことですが、一番大事ではないかと、いつも思っております。



# 手づくりの広場完成

## 札内中央町第三公区

札内中央町第三公区（矢野善七公区长）で、土地の無償提供をうけ、公区の皆さんにより「子供広場」が完成しました。

この広場をつくったきっかけは、土地所有者が音更町に住んでいて、当面は利用する考えがないということ、何か有効に使っていただければ、と公区に申し出たためです。

公区内は交通量の多い街の中で、子供たちが戸外で遊ぶことは、交通事故の心配のタネでもありました。そこで、土地の提供が二千八百四十平方メートルあることから、子供たちの自由な遊び場にしようとして決定したものです。

造成には、町内の塗装店、工芸店、採石会社や篤志寄付をうけて、幼児用広場と運動広場にわけて完成、幼児用は古タイヤで囲いをし、



完成した「子供広場」

### 寄付者のお名前

#### ■町社会福祉協議会へ……

▽松田稔さん（千住）から母が生前お世話になりましたと三万円  
▽長谷川勝志さん（札内文京町）から父が生前お世話になりましたと五万円  
▽逢坂勝巳さん（札内春日町）から父が生前お世話になりましたと五万円  
▽本田栄吉さん

砂場、古タイヤ、ブランコを設け、運動広場にはバックネット、ベンチなどを設置、ソフトボールができる広場になっています。

これからも、公区の人たちの奉仕によって、ゲートボール場を二面から三面に増設、花だんづくりの計画もあり、他の公区からも使

ん（駒島）から父が生前お世話になりましたと五万円  
▽小野典昭さん（緑町）から父が生前お世話になりましたと五万円  
▽山角保さん（札内若草町）から父が生前お世話になりましたと十万円  
▽タンポポサークル（代表・山根叡子）から五万円  
▽匿名の方から

千円  
■老人クラブへ……

用させてほしいという要望もきているそうです。

### 短歌「あゆみ会」の紹介

今月号から幕別にある「あゆみ短歌会」の短歌を掲載することになりました。この「あゆみ短歌会」は、短歌を愛する方々の仲間、昭和三十三年に発足、会員の皆さんの作品により、合同歌集を過去二回発行しています。

現在は、会員二十二名（会長・勝山春代さん）で、毎月一回の例会を町民会館で開催し、真剣にとりこんでいます。



短歌づくりに取り組む会員の皆さん

### あゆみ詠草 五月例会

高橋由貴子

亜麻種を一つまみ程蒔きたりき咲かせて「ふみ子」の碑に供へたし

湯上りに素足で歩く板の間の触すがしき春の夕べは

麦畑も移植ビートも見の限りひと雨ごとに緑芽えくゆる

「ちひろ」画く幼の瞳と甘栗のつぶらに光るそを見つめ居ぬ

紅色のばらの新芽をさけゆきて松の枝切る午後の陽うけて

勝山 春代

森田美恵子

長谷川 勲

### 三川正治さんから百万円の寄付

三川正治さん（岩内郡岩内町字相生一二四番地）から息子（淳・役場開発商工課開発調整係長）が生前お世話になりましたと、町社会福祉協議会へ百万円の寄付がありました。



高橋助役に手渡す三川正治さん

## お願い

公区・地域などで行事等を開催した場合は、簡単な内容と写真2種類を町民課広報広聴係までお寄せ下さい。広報まくべつの「まちのニュース」で掲載いたします。

たばこ消費税は暮らしの中に生かされています

（昭和56年度のたばこ町消費税は 74090千円）

●たばこは町内で買ひましょう。





## サーモン通信②1

人工海水飼育を始めてから7月1日で80日目になりました。水温12℃、比重1.0175、PH6.6の水で体長12cm・体重11.5gまで育っています。餌は昨年と同じくイカナゴとイサダアミを与えています。4月12日に途別川から海へ旅だった兄弟たちは今ごろどこまで行ったやら…。

サケ・マスふ化場札内事業場長の田浦久雄さんの話では「沖合い約5km、水深40～90mくらいの所にいると思います。そろそろ冷水塊に乗って餌のプランクトンを追いつながら北太西洋に向かって北上する時期でしょう」とのことです。

ふるさと館の人工海水飼育は7月25日で95日目になり、新記録達成です。乞ご期待！

## さかなよもやまばなし 魚四方山話(上)

# 山女魚

水河期に種族保存の為海洋へ出たものがサクラマスで、陸封されたものがやまべと言われているがその生態は不明な部分が多い。生息域は北海道から関東までの太平洋側と中国地方までの日本海側九州南西等に分布する。

体側には10数個のパールマーク(幼魚斑)がある。降海型のやまべは生後二年目の春、背ビレ尾ビレの先端が黒ずみだしパールマークも薄れ銀毛化が始まりサケ科特有の銀白色の光沢になる。この傾向は糠平湖など、ダム、湖で育ったやまべにも確認されている。

このパールマークのほかに大小不ぞろいの黒斑があり個体の成長過程における日照時間、行動圏によっても左右される。性質はエサを発見すると執拗なまでに襲いかかるが、警戒心も強

く危険を察知すると平日は岩の下などに隠れてしまうほど臆病でもある。この性質が釣人をとりこにし解禁になるとさしずめ銀座通りになる。

実際水槽でかってみると、やまべは20～22度ではエサを食べないが銀毛化したものは活発に食べる。逆に低温0～3度では、やまべは活発に動きまわっているが、銀毛化したものはほとんど動きがなくなる。

サクラマスのそ上はサケと違い五、六月頃で、銀毛化したやまべが海洋へ出るのもこの頃がピークである。

今十勝川の汽水域(淡水水混合域)で産卵にきたサクラマスと、これから海洋へ出る魚群が互いに体を慣らしながら「帰ってこいよ」こんな言葉をかかわしているかも知れない。

れない。

川へのぼったサクラマスは秋に上流で最後の力をふりしぼり産卵する。決して我子を見ることは出来ない。我々はこの自然界の輪廻を暖かく見守ってあげたいものだ。



SATOH.  
ふるさと館  
プランナー

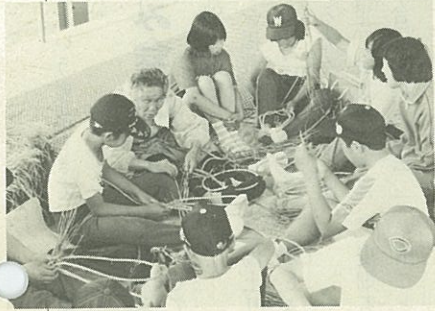
佐藤正弘

## 子供たちが

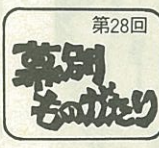
### ワラジ作り

開拓生活を体験するサバイバルスクール'82の説明会とワラジ作り(写真・左)を六月二十日にふるさと館で行ないました。

ワラジ作りの指導は岡田改さん(相川)、鏡はるさん(旭町)、竹本義晴さん(札内共栄町)の三人にお願いしました。子供たちは小さな手でワラを編み、およそ三時間かけて一足を完成。できあがったワラジをさっそくはいて歩く子もあり、開拓生活体験が今から待ち遠しそうです。七月十一日には竹製の水筒を作ります。



昭和五十二年秋、西猿別小学校の上空を一台のヘリコプターが旋回していた。とはいっても本物ではなくラジコンのヘリである。地上で操縦しているのは同校のOB西川英男さん。翌年四月には幕別小学校に統合されるわが母校を自作のヘリコプターで空から撮影しようとしていた。



## 回想、空をとぶ

### 思い出の学校④ 西猿別小学校

西川さんが入学したのは昭和十四年、教員は村山達先生一人だった。このころの学校は不安な時代を背景に精神教育、忠君愛国の教育が行なわれた。それは西猿別国民学校も例外ではなかったが、山でコクワやブドウをとったり近くを流れる茂発合川で魚をすくったりと、戦争中の暗い時代ではあっても、子供たちの世界は輝いていた。授業が終わってもまっすぐ家へ帰らず、西の空が茜色に染まるころ真っ黒になって家路についた。

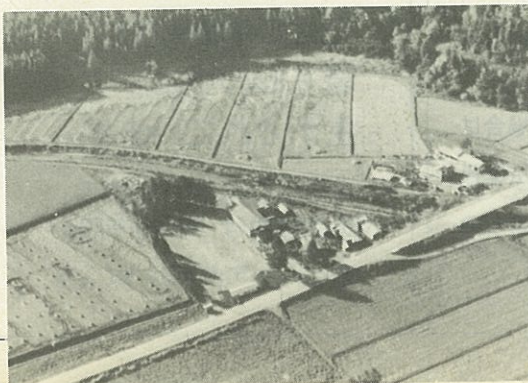
真冬ともなれば校舎の板壁からは厳しい寒気が容赦なく入り込んで、教室の寒さはたいして気にならなかつたという。なぜなら生徒たちの家もそのころは粗末で寒かつたからだそう。

工作が得意で、竹トンボを削っていた少年が今、ラジコンのヘリ

コプターで母校の写真を撮っている。

——自作のヘリを見上げ「いよいよ学校がなくなるなあ。この辺りの子供は来年度の春からスクールバスで町の学校に通う。いっそのこと町から近い割に自然に恵まれた西猿別に学校を作って、バスを町からこっちにあつて(＝反対に)通わしたらいいのにねえ」そんな夢みたいなお話と昔の思い出を頭の中で重ね合わせながら撮影した写真なんだ。西川さんはそう話してくれた。

(取材・斉藤すみ子)



撮影・西川英男さん

西猿別小学校の前身である「幕別尋常高等小学校特別教授場」が創立されたのは大正二年六月一日、この時の児童は男六名・女七名の計十三人。初代教員は幕別校から派遣された青木常作。創立時は青年会事務所を仮校舎に使用し、独立校舎になったのは翌年である。同五年に校舎を「幕別尋常小学校別分校」と変更。同九年十月に幕別尋常高等小学校の管轄から離れて独立。「西猿別尋常小学校」と改称。昭和十六年四月「西猿別国民学校」と改称。大正初期から多くの児童が巣立った同校は昭和五十三年四月に幕別小学校に統合された。